

田岡俊次の 国際情勢の 行間を抉る (終)



トランプ大統領来日と 「圧力強化」の危うさ

「あらゆる手段を通じて北朝鮮に対する圧力を最大限まで高めて行くことで完全に一致しました」。11月6日、トランプ米大統領との会談後の記者会見で安倍首相はこう述べた。経済制裁で北朝鮮に核と弾道ミサイルの放棄を迫つても効果がないことはほぼ確実で、米国は西太平洋に空母3隻を開戦、ステルス戦闘機F35Aを嘉手納に配備するなど、軍事的圧力を強化している。だが北朝鮮がそれに屈して、自ら対話を求めて来る可能性も低い。威嚇にはそれに相手が応じなければ、さらにエスカレートするしかない、という問題があり、相手もそれに反応して戦争に至る危険をはらんでいる。もし戦争になれば、滅亡が迫る北朝鮮は自暴自棄の心境から、核ミサイルを発射する公算は高く、韓国、日本に甚大な被害、恐らく数百万人の死傷者が生じることになる。安全保障担当の米大統領補佐官H・マクマスター陸軍中将は「被害について共通の理解を得る必要がある」と発言しているが、今回のか否かは明らかではない。戦争

となれば致命的打撃を受ける韓国の文在寅(ムン・ジェイン)大統領は米国の武力行使に絶対反対の姿勢を示し、安倍首相の「(米国と)100%共にある」との声明とは対称的だ。米国も日本、北朝鮮、韓国、周辺諸国のはずれもが戦争を望んでいないのは明らかだが、今回のトランプ氏との会談で、安倍首相はトランプ大統領の「チキンゲーム」の車の助手席に乗つて激励し、戦争に一步近づける形となつた。「人類史上最大の危機」と言われた1962年の「キューバ・ミサイル危機」に似た様相を示しつつある今回の危機を避けることはできるのか。(聞き手／本誌編集長・和泉貴志)

「対話は無駄」発言で批判され安倍氏に電話で相談

Q：今回のトランプ大統領と令嬢イヴァンカさんの訪日で、日本は最大限のおもてなしをして親密ぶりを示し、北朝鮮問題での見解も完全に一致したから「これで一安心」との感を語る人もいるがどうでしょうかね。

田岡：トランプ氏にとつてはこの上

なく心地よい3日間だったでしょう。

西欧諸国では地球温暖化防止の「パリ協定」からの米国の離脱や、伊朗核合意（原子力の平和利用を認め、核兵器開発につながる活動を制限）

をトランプ氏が非難していることなどから、関係は悪化しています。ロ

ンドン市長のS・カーン氏（パキスタン系イスラム教徒）を批判したことでもあって、トランプ氏の訪英には約200万人の反対署名が集まり、第1の同盟国・英国に行けない。女王が会見されるか否か、の論も出ました。韓国は米国の武行使を警戒し、中国、ロシアも「対話で解決すべし」とトランプ氏の「対話よ

り圧力」に反対する。米国政権内

でも、R・ティラーソン国務長官、J・マティス国防長官（退役海兵大将）

らが、「外交的解決」を唱えるし、

上院外交委員会のR・コーカー委員長と罵倒合戦をするなど、与党

の共和党主流派とも険悪な関係です。内外で四面楚歌の中、安倍氏

だけは「完全に一致」してくれるのだから、蜜月関係になつて当然です。

ティラーソン国務長官が訪中し、

北朝鮮との対話の糸口を求めようとしたのに對し、「小さなロケットマ

ンと対話しようとするのは時間の無駄だ」とツイッターで批判、これが

問題になつた際には安倍氏に電話して「レックス（ティラーソン）の発言

をどう思う」と助言を求め、安倍氏が「今は対話より圧力が大切」と応じた、と言われています。トランプ氏は「戦争になれば大勢が死ぬが、こつち（米国）ではなく、あつち（韓国、日本）の方で死ぬ」と言つたほどの米国第一主義者だが、

日本で歓待されて親近感を抱けば、北朝鮮を倒すために日本を犠牲に

しても構わない、という心情は薄れると損はない。ただ戦争にならない

よう強く求めるることは必要です。

それをどこまで言い、どんな反応を得たのかは2人だけの会談もあつたから分かりませんがね。

その後キューバに経済制裁、外交圧

力を強化したがほとんど効果はなかつたため、米軍が加わる大侵攻作

機」は米ソの密約で解決

Q・本誌11月号では経済制裁が北

朝鮮に効かない理由、10月号ではもし核使用に至つた際の日本の被害について詳しく伺つた。今回ト

ランプ、安倍両氏は「最大限の圧力」を加えることで合意し、チキンゲームのアクセルを一杯に踏み込んだ形です。米国とソ連が全面核戦争の寸前になつた「キューバ危機」に似て來たと思えますが。

田岡・全く同感です。中央公論新社が2015年に刊行した『キューバ危機』を再読し、当時のR・マクナ

マラ国防長官がボトマック川越しの美しい夕陽を見て「生きてもう一度」のよう夕陽を眺めることはあ

るだろうかと思った」というくだりに、身につまされる思いでした。

183隻もの軍艦をキューバ東方900kmの海上に展開し、ソ連の貨物船を臨検し、追い出す計画だが、

これはソ連との戦争になる可能性があつたから、日本を含む世界各地の

米軍は臨戦態勢に入り、B52戦略爆撃機は水爆を搭載してソ連領空

近くで旋回待機、弾道ミサイル「ボ

ラリスト」搭載の原子力潜水艦や、

ス湾に送り込んだが、上陸した1200人中、死者500人、捕虜700人を出して全滅、大恥をかいた。

その後キューバに経済制裁、外交圧力を強化したがほとんど効果はなかつたため、米軍が加わる大侵攻作

機」は米ソの密約で解決

Q・本誌11月号では経済制裁が北

朝鮮に効かない理由、10月号ではもし核使用に至つた際の日本の被害について詳しく伺つた。今回ト

ランプ、安倍両氏は「最大限の圧力」を加えることで合意し、チキンゲームのアクセルを一杯に踏み込んだ形です。米国とソ連が全面核戦争の寸前になつた「キューバ危機」に似て來たと思えますが。

田岡・全く同感です。中央公論新社が2015年に刊行した『キューバ危機』を再読し、当時のR・マクナマラ国防長官がボトマック川越しの美しい夕陽を見て「生きてもう一度」のよう夕陽を眺めることはあ

るだろうかと思った」というくだりに、身につまされる思いでした。

183隻もの軍艦をキューバ東方900kmの海上に展開し、ソ連の貨物船を臨検し、追い出す計画だが、

これはソ連との戦争になる可能性があつたから、日本を含む世界各地の

米軍は臨戦態勢に入り、B52戦略爆撃機は水爆を搭載してソ連領空

近くで旋回待機、弾道ミサイル「ボ



キューバ危機の最中、ソ連船を威嚇する米軍機

としても構わない、という心情は薄れるか、と期待します。厚遇するこ

とに損はない。ただ戦争にならない

日本で歓待されて親近感を抱けば、北朝鮮を倒すために日本を犠牲にしても構わない、という心情は薄れるか、と期待します。厚遇するこ

とに損はない。ただ戦争にならない

日本で歓待されて親近感を抱けば、北朝鮮を倒すために日本を犠牲にしても構わない、という心情は薄れるか、と期待します。厚遇するこ

とに損はない。ただ戦争にならない

米国が他の国でしばしばやるように、領空に入つて写真撮影をすることも起つことでしょう。それに対しもし北朝鮮が対空ミサイル、対艦ミサイルを公海やその上空の艦艇、航空機に発射すれば、初弾を撃つたのは北朝鮮だから、トランプ氏は「戦争を始めた」責任は免れます。

ただ、米統合参謀本部は「地下にある核兵器の所在を完全に把握できていない。完全に把握し破壊するには米地上部隊の投入が必要」



米国は空母3隻を西太平洋に派遣、軍事的圧力を強める（米海軍）

政権を米国が承認することになる

国を確実に狙えるICBMの開発さえやめさせれば一応成功だろうが、「凍結」は北朝鮮が日本などに届

との見解を示しています。米軍が攻撃しても總てを一気に破壊できない場合、相手は残ったミサイルを発射することになる。米国内では「最悪から、相手は残ったミサイルを発射されることになる。米国内では「最悪の場合は、被災者は2500万人、うち米国人10万人」との見積もりも出しているから、トランプ氏も戦争をしたくはないのは確かでしょう。北朝鮮も戦争になれば滅亡は確実だから、自ら戦争を挑むとは考えにくい。北朝鮮は9月15日以降、弾道ミサイル発射をしておらず、「労働新聞」は10月28日の論評で「核戦力建設の目標は總て達成された」と述べているから、「これ以上はやらない」気配も示しています。

これまでも述べたが、米国でもティラーソン国務長官、マティス国防長官らは「外交による解決」を訴え、同国の現実派の間では「核・ミサイル開発の凍結と国交樹立」を落としころに對話するしかない、との論が出ています。米国にとつては本

から、日本にとっては苦しい状況になります。トランプ氏と安倍氏が「圧力強化で核・ミサイル廃棄をさせる」と唱えた目標は達成されず、2人は右派からの激しい非難に晒されるでしょう。それでも戦争になり、日本でも何百万人もが死傷するよりはずっとましうあります。

戦争になるか否かを考える際、私はビル・クリントン大統領がホワイトハウスの研修生モニカ・ルインスキーラ娘と書庫で戯れ、弾劾されかけた事件を思い出します。下院が訴追を決めたのは1998年12月19日だったが、その審議が進んでいた12月16日から19日にかけ、米軍はイラクのバグダッドなどに対し巡航ミサイル「トマホーク」325発以上とB52からの空中発射巡航ミサイル90発などによる猛烈な攻撃を行なった。「大量破壊兵器の査察に非協力的」との理由だったが、当時すでに終了しており、国連の承認を得ていない攻撃だったから、醜聞隠しの攻撃、と言われた。上院では弾劾賛成が3分の2に達せず無罪になりました。

トランプの場合、側近のロシア



果たして金正恩氏は日米の「圧力」に屈するのだろうか

との癒着が次々と暴かれ、与党である共和黨の主流派とは対立、政府の人事も進まず、閣僚からも馬鹿扱いされ、西欧諸国にも愛想尽かしされるといった苦境にあるだけに、一打逆転を狙つて武力行使の選択肢に手を伸ばしかねない状況にあります。米軍首脳が極めて慎重であるのが救いで、「シビリアン・コントロール」とは軍人がシビリアンをコントロールして戦争をさせないことを指すのか、と苦笑してしまいます。（11月7日記）